

【常金丸学区】学校再編に係る地域説明会 概要

* 分かりやすくするため、一部補足を加えています。

【日時】 2020年（令和2年）12月17日（木） 19:30～21:15

【場所】 常金中学校 体育館

【出席】 参加者 54人（地域、保護者）

行政 12人（教育長、教育次長、管理部長 他）

【内容】

- 1 開会
- 2 出席者自己紹介
- 3 説明
 - ・取組経過について
 - ・学校再編について
 - ・今後のスケジュール
- 4 意見交換
- 5 閉会

あいさつ

（教育長）

日頃から、常金丸小学校と常金中学校の教育推進に、多大なる御支援、御理解をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

学校再編について、今日まで約2年間にわたり話し合いをさせていただきましたが、皆様の思いに十分に応えられていないことが多々あると思います。しかし、これまでいただいていた皆様の御意見やお気持をしっかりと受け止めさせていただく中で、新たな学校づくりを進めさせていただきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

（常金丸学区自治会連合会 大谷会長）

学校再編に関して、昨年2月に中学校の再編、小学校の移転新築という計画が教育委員会から提示されました。昨年度1年間は、住民の意見を取り入れた形で計画の白紙撤回を求め、教育委員会と意見交換をしてきました。

今年2月、計画の撤回という地域の思いが通らないということを受け、地域として、再編に向けて前向きに考えていくことで方向転換をしました。その後、新型コロナウイルス感染症の影響で半年間、十分に意見交換できない状況が続く中、今日に至っています。

これまで子どもたちの不安解消、保護者の思いを伝えてきましたが、開校準備委員会を設置しなければ具体的な話が進まないと聞いています。子どもたち、保護者の思いを取り入れた新しい学校づくりをすることが学区にとって非常に大切だと思います。

説明

(学校再編推進室長)

これまでの取組経過，学校再編と今後のスケジュール（案）について説明。

(教育長)

これまで，保護者や地域の方々の思いを聞かせていただきながらも，十分に応えられていないと受け止めています。しかし，新しい学校づくりに向けて，いただいた思い一つ一つに応えていきたいと思えます。

新たな学校をつくるということがゴールではなく，スタートだと思っています。子どもたちが持っている力や可能性を子どもたち同士が切磋琢磨する中で伸ばせるよう，地域，保護者の御協力をいただきながら，教育委員会と教職員が一丸となって支援し，応援していきます。

先程，再編に向けた具体的な取組を説明させていただきました。まだまだ足りないところがあると思いますが，説明したことは責任を持って確実にやっています。今日も，これからの新たな学校づくりに向けて，率直な意見を聞かせてほしいと思います。一つ一つどうやったらできるかということをしつかりと考えていきます。新たな学校づくりに対する御理解と御協力をよろしくお願いします。

意見交換（出席者から出された意見等）

■ 通学について

- スクールバスを利用するための条件はあるか。そのことについても話合いで決定していくことになるのか。

→（回答）

中学生の通学支援は，自宅から学校までの通学距離が6キロメートル以上という基準があります。再編にあたっては，安全な登下校を第一に考えていきます。

スクールバスのルートや乗降場所等は，開校準備委員会のもとに通学等部会を設置し，地域・保護者の意見を聞きながら決めていきます。自転車通学を希望する生徒もいると思うので，スクールバスの利用は，選択制にすることを考えています。

- 通学路の安全対策について，常金丸地域の主要道路は県道のため，県との協議が必要になるのでは。
- 通学路について，街灯，防犯カメラ，路面表示等の整備を早急をお願いしたい。

→（回答）

県道に係る安全対策は，時間を要する整備もありますが，県や警察と協議をしながら，必要な対策を行っていきます。

■ 部活動について

- 中学生の子どもが、現在ソフトテニス部に所属している。新市中央中学校には硬式テニス部しかないと聞いたが、対応はどのように考えているのか。交流事業はどうなるのか。

→ (回答)

新市中央中学校のソフトテニス部は今年度から部員の募集を停止しているため、再編にあたっての対応を両校で検討しています。

交流事業については、常金中学校の2・3年生と新市中央中学校の3年生と一緒に練習するなどの交流を図ります。

- 再編までの具体的な取組の中に「練習や合同チームによる他校との練習試合など交流を実施し、新チームに向けた準備を行う」と書かれている。現在、練習試合をする際の移動費は公費で賄われていないが、負担してもらえると捉えてよいか。

→ (回答)

合同チームによる他校との練習試合に係る移動費は、教育委員会が負担します。

■ 特別支援学級について

- 特別支援学級について、1学級5人以上の場合は介助員を配置するとあるが、これは必ず配置できるのか。特別支援学級から通常学級に変更した際、また特別支援学級に戻ることは難しいと聞いたが、再編にあたってスムーズにできるような対応はないか。

→ (回答)

学級に生徒が5人以上在籍していれば、介助員を1人配置します。

特別支援学級から通常学級、通常学級から特別支援学級に在籍を変更する場合は、再編にかかわらず、教育支援委員会において、子どもの障がいの状況等をもとに在籍する学級の審議を行います。

- 現在の常金丸小学校の特別支援学級の教員数は2人。これを3人にすることはできないのか。

→ (回答)

現在、常金丸小学校の特別支援学級には、担任以外に介助員2人に加え、非常勤講師1人を配置しています。この非常勤講師は、教員免許を所有し、ティームティーチングによる指導、グループ別指導など教科の指導ができ、個々の児童の障がいの状態に応じたきめ細かな支援ができます。

■ 開校準備委員会について

- 開校準備委員会の委員数を決めたのは教育委員会か。
- 中学校同士の再編なのに、中学校区で委員数の差があるのはなぜか。

→ (回答)

教育委員会が作った委員数の案について、再編関係地域・保護者（PTA）の役員の意見交換会において、意見をいただく中で、資料の委員数としました。

○ 新市中央中学校区でなぜ網引・新市・戸手小学校の保護者が委員に入っているのか。開校準備委員会の委員には、相当な負荷がかかると思うが、報酬は支払うのか。

→ (回答)

再編後の中学校に進学する小学校の保護者の意見を取り入れるため、網引・新市・戸手小学校の保護者からも委員の選出をお願いするものです。委員への報酬の支払いはありません。

○ 開校準備委員会での話合いで物事が決まらないときは、最終的には多数決で決めるのか。
○ 新市中央中学校区の委員数の方が常金中学校区より多くなっている。もし、多数決で決めるようなことがあれば、常金丸の思いが届かない。

→ (回答)

どのようにして決めるかも含め、全て話し合っただけで決めています。校区の委員数が影響を及ぼす協議事項を多数決で決めるようなことはしません。どうしても必要なときは、実際の数に委員数の割合を乗じるなど工夫します。これまで設置してきた開校準備委員会はどれも、各地域がお互いを尊重し合う中で運営されました。

○ 開校準備委員会は、両地域の保護者・住民が再編に賛同した際に設置されるものと聞いていた。1月に開校準備委員会を設置したいとあったが、1月までに保護者・住民合意を得ることができると考えているのか。

→ (回答)

地域、保護者の皆さん、それぞれ様々な思いを持っておられます。そうした中でも、地域は、再編計画の白紙撤回から再編に向けて前向きに進めることへと、考えを方向転換されました。保護者とは意見交換を重ねてきましたが、再編の取組を遅らせることが、子どもたちや保護者の不安をより大きくする状況となっています。進学先を迷っている小学校6年生の保護者も多くおられ、判断すべき時期が来ています。子どもたち・保護者・地域・学校が2022年4月に開校するという意識を持って具体的な話を進めていくため、開校準備委員会を設置し、取組をスタートさせていただきたいと思えます。

○ 開校準備委員会の設置時期が12月から1月になり、開催回数が10回から9回に減っている。この回数で、大事なことをしっかりと話し合っていけるのか。

→ (回答)

開校準備委員会は、新市中央中学校区の地域説明会(12月26日)を踏まえて設置します。そのため、1月中旬になると考えています。開校までの期間が1年3か月となり、開催回数は当初より減っていますが、しっかりと話し合いが進められるよう事務局でスケジュールを管理します。事前に委員に会議資料を送付する等、スムーズに話し合いが進められるよう取り組みます。

○ 開校準備委員会での話合いの内容や決定事項は周知してもらえるのか。できれば開催するごとに情報提供をしてほしい。

→ (回答)

開校準備委員会開催後は、毎回「開校準備委員会だより」を発行します。地域には自治会を通じて全戸配付、保護者には学校を通じて各家庭に配付します。保護者に早く伝えなければならない情報については、別にプリントを配付することもあります。

○ 「開校準備委員会だより」をホームページにもアップしてほしい。また、コメントを入れられる機能を付けてほしい。

→ (回答)

「開校準備委員会だより」は、ホームページにも掲載します。

コメント機能については、ホームページに、「このページに対するお問い合わせはこちらから」というフォームがありますので利用してください。コメントをいただきましたら、返事をします。

■ 小学校の移転改築について

○ 小学校の移転改築について、地域の合意は既にとれているのか。

→ (回答)

小学校校舎は、耐震補強が困難な建物であり、建替えが必要です。小学校の敷地が土石流による警戒区域であることや、地域からの要望を踏まえる中で、敷地面積が広く、県道からのアプローチが良い中学校敷地に建て替える計画としました。

○ 再編が遅れた場合、常金丸小学校の移転改築は行われたいのではという不安がある。

→ (回答)

小学校の建替えは、早期に行う必要があり、2022年に中学校が再編できるよう取り組む考えです。

■ 小学校の跡地活用等について

○ 閉校したら、地域が学校に寄附したものと長年親しんだものは処分されるのか。

→ (回答)

地域から寄附いただいたものなど貴重な品の取扱いについては、地域や保護者の皆さんの御意見を聞きながら決めていきます。

今年4月に再編した学校では、閉校に伴い取り外したものと貴重な品は、全て写真に撮り、デジタル保存しました。写真はアルバムにして、再編校のふれあいルームで見ることができるようにしています。卒業制作は展示会を開き、作成者が分かり返却できるものについては、希望する方にお返しするといった対応をしました。

○ 現在の常金丸小学校の跡地活用はどのように考えているのか。

→ (回答)

現時点で考えはありません。小学校の敷地が、土砂災害の警戒区域に入っていることもあり、それを考慮したうえで今後の利活用を考えていく必要があります。

■ 学校再編について

○ 教育委員会が適正規模としている1学級20人以上の規模の根拠は。

→ (回答)

「1学級20人以上」というのは、単学級(1学年1学級)の中学校は、1学級あたり、少なくとも20人以上の生徒が必要との考えです。学校規模・学校配置の適正化の取組にあたって、学識経験者や地域、保護者の代表者、学校関係者等で構成する学校教育環境検討委員会から「望ましい学校規模・学級規模」について答申をいただきました。その答申内容に基づき定めたものです。

○ 質問を投げかけないと教育委員会から情報が出てこない。事前に保護者や地域に伝えることで安心につながるものもあるのでは。

→ (回答)

いただいた意見に対しては一つ一つ検討しています。今後は、検討途上の内容であっても、どこまで検討できているのかをお伝えするようにします。

保護者の意見を踏まえ、検討する内容もあります。皆さんが思われていることや不安は、これからも聴かせてください。

○ 11月19日に実施された新市中央中学校の保護者説明会の際に、教育委員会は「常金中学校側は校名・校歌はそのままでよいと言われている」と言っていたが、それは一部の意見なのでは。

→ (回答)

常金丸小学校と常金中学校の保護者を対象に実施したアンケートで書かれていた意見や、これまでの意見交換会で直接お聞きした意見を紹介したものです。保護者全体の意見という説明はしていません。

○ この常金丸地域で生まれ育ち、子育てするときは常金丸でいたいという思いを持って地域に帰ってきた。将来、後悔のないよう素晴らしい学校にしてほしい。

閉会

教育長

今日もたくさんの御意見をいただきました。いただいた意見にはしっかりと応えていきます。コロナの拡大があり、このような説明の場を持つことはなかなか難しい状況ですが、個別に話をさせていただくなど、皆さんの意見を積極的に聞かせていただく中で、新たな学校づくりに取り組んでいきたいと思えます。

2022年4月開校という目標をしっかりと持ち、最大限の努力をしていきます。引き続き御協力をお願いいたします。